

松尾城

平成21年度企画展示は「松尾城」を3つのテーマで展示します。

Iでは松尾城の発掘成果を中心に築城以前の遺構（古墳等）や御住居建設時の遺構を展示。

IIでは掛川市郷土史家、関七郎氏所蔵の絵図を基に松尾城・町割の様子を紹介しします。

IIIでは山武市松尾町内に遺存する資料を紹介しします。

松尾城築城の概要

明治元（一八六八）年、江戸城および関東の天領を新政府に移譲した徳川家は、駿府・遠江（静岡県）七十

万石に封ぜられ、駿府・遠江の諸藩は上総・安房に移封されました。

旧掛川藩主太田資美は上総国武射郡移封により、松

尾城築城が始まります。

掛川藩といえは思い出すのは戦国武将の山内一豊、後の土佐守です。掛川藩は東海道の要所で徳川時代も譜代大名が藩主に任命されています。

発掘調査の成果

松尾城は松尾中学校改築に伴う事前調査として平成6年〜平成11年に山武郡市文化財センターが発掘調査を実施しました。

調査成果の概要は、古墳6基（円墳3基内1基二重周溝・方墳3基）、竪穴式住居跡1基、居館跡、土塁などです。

本地域は大堤権現塚古墳（三重周溝）はじめ蕪木古墳群・猿尾古墳群など多くの古墳群が占地しています。千葉県誌下巻（大正八年）



空から見た松尾中学校周辺の遺構検出状況

に松尾古墳について記載されています。抜粋しますと「明治三年太田資美此の地に移封せられ藩庁経営の工を起し、六月十日地を穿ちて石棺を発見せり、（中略）又大堤の箱根神社境内は兜状を為し人工を以って築きしくもの、如し、故に或は国造の墓（・・・後略）」

松尾城築城時に古墳の石棺発見を示しています。千葉県誌下巻の記載のとおり今回の発掘で古墳の存在を確認しました。

居館跡は柱穴に貝を充填して、礎石を置き柱の沈下を防止する処理がされていました。これは伊藤左千夫生家の柱部分にも同様な処理が見られました。

今回は築城以前の様子を中心に発掘成果を展示しします。ご来館お待ちしております。